

論文審査の結果の要旨

Prognostic Significance of ABCB1 in Stage I Lung Adenocarcinoma

I 期肺腺癌における予後マーカーとしての ABCB1 の意義

日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器感染腫瘍内科学分野

大学院生 鄒 奮飛

Oncology Letters 掲載予定

肺癌においては癌幹細胞 (Cancer Stem Cell: CSC) による薬物耐性モデルが近年注目されている。非小細胞肺癌においては、ABCB1, ALDH1A1, CD44 などが CSC 関連マーカーとして報告されているが、その意義および患者予後との関連は明らかになっていない。

本研究では、非小細胞肺癌患者 194 例の手術検体組織(パラフィン包埋切片)を用いて、非小細胞肺癌における ABCB1, ALDH1A1 および CD44 蛋白発現の予後マーカーとしての有用性を評価することを目的とし研究を行った。臨床病理学的因子および予後解析の結果、ABCB1 陽性例は陰性例に比べ、肺腺癌 I 期症例および EGFR 野生型肺腺癌 I 期症例において、全生存期間 (OS) が統計的有意差をもって予後不良であった。さらに、肺腺癌 EGFR 野生型 I 期症例においては、ABCB1 陰性例は陽性例に比べ無病生存期間(DFS)が有意に長く、多変量解析にて ABCB1 は EGFR 野生型 I 期肺腺癌の独立した再発予測因子であることを明らかにした。以上、免疫染色による ABCB1 蛋白発現は、I 期肺腺癌患者の術後予後予測バイオマーカー、特に EGFR 野生型肺腺癌においては、有力な再発予測マーカーであり、術後補助化学療法の個別化に有用できる可能性がある結論づけた。

第二次審査においては、ABCB1 発現の病理学的および分子生物学的意義、臨床応用への展望など多岐にわたる質問がなされ、いずれに対しても的確な回答が得られた。本研究は、バイオマーカーを用いた肺癌の個別化治療の進展に寄与する期待が高く、学位論文として十分価値あるものと認定した。